

昔のくらし展

2020年12月5日（土）～2021年2月21日（日）

名称	読み方	数量	材質等	時代	解説
昔の生活					
湯たんぽ	ゆたんぽ	2点	ブリキ製/陶製	昭和	ゆたんぽは、中国で今から1400年前ころから使われていたそうです。日本では600年前室町時代から使われていたそうです。陶製は江戸時代から使用し、ブリキ製は大正時代頃から使用されていました。現在は様々な材料から作られています。陶製の特徴は、熱が逃げない、朝まで熱を保つことができ、ブリキ製は熱伝導が高く、すぐにからだを温められます。
番傘	ばんがさ	1本	紙(和紙)/木製	昭和	番傘は和紙や竹、木を使って作られた日本古来の傘です。和紙に油を塗ることで、水をはじいて雨傘として使用するようになります。
回転こたつ	かいてんこたつ	1台	鉄製/木製	昭和	かごの中の鉄箱に炭を入れ、ふとんをかけて足もとをあたためました。箱が回転するようになっているため、足が当たっても炭がこぼれることなく安全に使用できる工夫がされています。電気こたつが普及する昭和30年代まで使われました。
扇風機	せんぷうき	1台	金属製 (芝浦製作所/現・東芝製)	昭和	電気扇風機は、1893(明治26)年に初めて輸入されました。その後、研究を重ねて、日本初の国産扇風機を開発したのが芝浦製作所。現在の東芝になります。何度かの改良を重ね、様々な機能を持つ扇風機が登場しています。
蚊取り線香	かとりせんこう	1点	紙製(箱)	明治	蚊取り線香の原料になる除虫菊という植物は、1886(明治18)年にアメリカから日本に輸入されました。日本ですぐに栽培が始まり、1890(明治23)年には、棒状の蚊取り線香が開発されました。しかし棒状ではわずか60分しか燃えず、燃焼時間を延ばすため、渦巻型が開発されました。
ラジオ「CONDOR」	らじお「こんどる」	1台	木製 (三井物産会社製)	昭和	「CONDOR」(コンドル)という製品名で販売されていたラジオです。正面に付いている「つまみ」を回して使用します。一番左は【音量】、中央は【選局】、右側は回路を動かすための【再生】するためのものです。
8mmカメラ	8ミリかめら	1台	金属製 (コダック社製)	昭和	このカメラは、1930年代からアメリカのコダック社が販売した「シネコダックエイトモデル60」です。中に8mmフィルムが入っており、ゼンマイの力で最長25秒の動画撮影ができました。また、販売当初はフィルムの値段を下げるため、今の様に音声も録音できる機能はありませんでした(サイレント形式)。
映写機	えいしやき	1台	金属製 (シーメンス社製)	昭和	ドイツのシーメンス社製の映写機(映画を映すための機械)です。8mmカメラで撮影したフィルムの動画をみることができます。8mmカメラとは元々家庭用で使用する為として発売され、多くの方が映像の撮影を楽しめるようになりました。
電話(黒電話) ※600型電話機	でんわ(くろでんわ)	1台	塩化ビニール他 (沖電気工業製)	昭和	家庭用電話として、どの家庭にもあったダイヤル式の「黒電話」です。1980年代頃からFAX付きの電話や1990年代の携帯(けいたい)電話の普及により、次第に姿を消していきましたが、今でも【電話】という、黒電話のようなマークを数多く見かけます。
そろばん(算盤)	そろばん	1台	木製	昭和	そろばん(算盤)は、計算をするための道具で、古代の中国で使用され、日本には約600年前頃から使われているといわれます。
計算機	けいさんき	1台	金属 他 (日本計算機社製)	昭和	やがて、計算機が登場し、展示しているものは、日本初の国産化に成功した、日本計算機社製のもので、たし算・ひき算以外にも、様々な計算ができる機能を備えています。1970年頃から、小型電卓が流通し、姿を消していきました。
蓄音機	ちくおんき	1台	木製 (コロンビア社製)	昭和	蓄音機は有名なエジソンが発明した物として有名です。横のハンドルでゼンマイを巻き、その力でレコードを回します。針に伝わった音は箱の中の金属のパイプを通り、大きな音を生み出します。
リードオルガン	リードおるがん	1台	木製 (ヤマハ製)	昭和	「足踏みオルガン」とも呼ばれる様に、足でペダルを踏んで、風を送ることで音が出ます。元々はキリスト教の教会で聖歌を歌うために造られた巨大な「パイプオルガン」で、小型化されて一般家庭にも普及していきました。
羽釜	はがま	1口	鉄製	昭和	茶を沸かしたり、お米を炊く際に使用される釜です。吹きこぼれないように、重い木のフタを上置きします。現在は炊飯器の普及によって見かけることは少なくなりましたが、より性能の良い羽釜も開発されています。
おひつ	おひつ	1合	木製	昭和	羽釜で炊いたごはんをこの中に入れて保温(ほおん)していました。櫛(ひのき)で作られ、余分(よぶん)な水分をとり、ごはんが蒸れるのを防ぎます。
電気炊飯器	すいはんき	1台	金属製 (ナショナル/パナソニック製)	昭和	羽釜を使い、かまどで炊いていたごはんを、電気力でスイッチひとつでテーブルの上でも炊けるようになりました。今では、羽釜とおひつの両方の役割(炊飯と保温)をもっている、ジャー炊飯器が普及しています。
トースター (片面焼き式/ポップアップ式)	とーすたー	1台	金属製 (東芝製)	昭和	両側のふたがあき、パンを片面ずつ焼く道具です。この道具がもっと便利(べんり)になったのが「両面焼き」式のトースターで、パンが焼きあがると自動ではね上がり(ポップアップ式)。
七輪	しちりん	1口	陶製	昭和	中に火をおこした炭を入れて網の上で、魚などを焼いていました。珪藻土という材質が使われているものが多く、外に熱が逃げないため、少ない燃料で調理ができます。また、外に熱が伝わりにくくなっているため、持ち運びも便利です。
仕立師道具	したてしどろぐ	一式		大正～昭和	服をつくる「仕立師」の道具です。
シンガーミシン	しんがーみしん	1台	木製・金属製	大正頃	1920年頃に日本に輸入されたといわれるミシンです。ミシンは1910年代に急速に普及していきました。
永保橋親柱	えいほばしおやばしら				現在の市役所の南側に架かっていた橋で、現在もバス停の地名に残っています。1938(昭和13)年の阪神大水害によって、永保橋が流され、その橋の標識として使用されていたと考えられる柱の一部が約500メートルまで流れたそうです。
日本遺産展示					
唐箕	とうみ	1台	木製		脱穀したお米を唐箕の中に入れて手動で風を起こし、もみ殻、玄米などに選別するための器具です。実の詰(つ)まったものは一番手前の穴に落ち、もみ粕など軽いものは外に吹(ふ)き飛んでいきます。現代でも、ほぼ同じ構造でお米を選別しているほど、大変優れた技術です。
一斗枧	いっとます	1口	木製	大正	中にお米やお酒などをに入れて量(りょう)を計るものです。枧の大きさは、以下の通りです。
枧	ます	2口	木製	大正	※半升(0.9リットル)=牛乳パック約1本分 ※一升(1.8リットル)=ポリタンク1個分
◎摂津名所図会(芦屋全図)	せつつのくにめいしよすえ	1点		江戸時代後期 (寛政8-10(1796-98)年)	
◎摂津名所図会～伊丹の酒造り～ ◀日本遺産構成文化財▶	せつつめいしよすえ～いたみのさけづくり～	1冊	紙本木版	江戸時代後期 (寛政8-10(1796-98)年)	伊丹では鴻池家が、白く濁った「濁り酒」ではない清酒(澄み酒)を初めて製造し、江戸へ出荷を始めました(下り物)。以来、伊丹は酒造の街として、大きく発展を遂げる事になります。この資料は当時の酒造りの様子を描いています。
◎摂津国一覽絵図	せつつのくにいちらんえす	1点	紙本木版	江戸時代後期 (弘化4(1847)年)	摂津国の地図です。地域の地理を非常に詳細に描いています。摂津国の名所などを知ることができます。
◎芦屋川水車絵図 ◀日本遺産構成文化財▶	あしやがわすいしやえす	1点	紙本彩色	江戸時代末期 (安政4(1854)年)	江戸時代の芦屋に存在した水車小屋の配置図です。六甲山から流れてくる芦屋川沿いに多く分布しており、川の流れを利用して水車を回していました。水車は、油の生産を中心に、酒造りの為の精米などに利用されたようです。
◎水車模型	すいしやもけい	1台	木製	昭和	
◎猿丸酒造 旗	さるまるしゆぞう はた	1点	布製	明治～昭和頃	芦屋に在住し、西宮市の今津郷で酒蔵を営んでいた猿丸吉左衛門の銘柄「波静」の旗です。大正末年頃には「なみ静」「天授」の銘酒を醸出していたようです。
芦屋の焼物・打出焼					
二彩陶文字入菓子器	にさいらんもじいりかしき	1点	陶製	大正～昭和頃	●緑釉…鮮やかな緑色を呈する釉薬。古代より日本で使用されていたといわれています。 ●黒釉…黒色を呈する釉薬。古い年代の瀬戸焼で多く使用されています(古瀬戸)。 ●窯変…炎の具合や釉薬の物質変化によって、予期しない色や文様になることをいいます。 ●透彫…表から裏までくり抜いて模様を表すこと。 ●向付…主に刺身などが盛られた食器のこと。会席料理で膳の奥(向側)に置く事からその様に呼ばれています。
緑釉扇面形蓋付鉢	りよくゆうせんめんがたふたつきはち	3点			
黒釉菊文仙人像付盃	くくゆうきくもんせんになぞうつきさかづき	3点			
窯変和歌入菓子鉢	ようへんわかいりかしはち	1点			
黄釉船形重ね透彫向付	おうゆうふながたかさねすかしぼりむこうづけ	2点			
白釉湯呑	はくゆうゆのみ	1点			
鉄釉兔文徳利	てつゆううさぎもんとつくり	1点			
梅花文長角変わり皿	ばいかもんちようかくかわりざら	1点			
鉄彩雷文つなぎ小盃	てつさいらいもんつなぎこさかづき	1点			
二彩鳥文湯呑	にさいとりもんゆのみ	1点			
透明釉筆立	とうめいゆうふでたて	1点			
二彩鮎文笹葉形皿	にさいあゆもんささはがたさら	1点			
白釉字入丸形壁掛	はくゆうじいりまるがたかべかけ	1点			
俵手打出小楕鈕付壺	たわらでうちでこづちひもつきつぼ	1点			
鉄釉和歌入四角皿	てつゆうわかいりしかくざら	1点			
鉄彩梅文向付	てつゆううめもんむこうづけ	4点			
鉄彩松葉文蓋付碗	てつゆうまつばもんふたつきわん	3点			
窯道具	かまどうぐ	3点			
緑釉手焙	りよくゆうてあぶり	1点			
三鳥写水指	みしまうつしみずさし	1点			
五角小鉢	ごかくこはち	1点			
八角皿	はっかくざら	1点			
徳利	とつくり	1点			
色入土瓶	いろいりどびん	1点			
茶釉小楕	ちやゆうこづち	1点			
羊形香盒	ひつじがたこうこう	1点			
記念銘入瓢形花瓶	きねんめいりひさごがたかびん	1点			
三彩菓子皿	さんさいかしざら	5点			
二彩土鍋	にさいどなべ	1点			
花瓶	かびん	1点			